

つながい



●発行元●
新得町地域包括
支援センター
健福祉課在宅支援係
L 64-0533
X 64-0534

学べる

図書や掲示物で認知症を学ぶことができます。



パンフレットも
ご用意しています。



介護をしている
方がほっとでき
る場所です。

※開店は月1回です
開店時間：午前10時～午後3時
今後の開店日程
9月16日(金)
10月14日(金)
11月15日(火)
12月16日(金)

相談できる

保健師や介護福祉士等に、福祉や介護サービス、物忘れなどの相談もできます。

来所者同士の悩みの共有や、アドバイス、交流ができます。

楽しむ

トースト 300円
飲み物各種 200円

おいしい！！

おしゃれな温かい雰囲気
美味しい飲み物や軽食、
おしゃべりや他のお客
さんと交流ができ、
かわいいものや
リラックス音楽で
癒されます。

どなたでも来店
いただけます。

認知症カフェ(HOSI カフェ)って どんなところ？

**この看板が
目印！！**




場 所:
西2条南3丁目

とく
さん
し
歴
史
散
歩

No.12

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介します
一緒に
歴史の散歩に
出掛けましょう



新内駅通所

駅通所が設置されました。

取扱人は福本義雄があたり、建物50坪、官馬1頭、私馬4頭、馬車1台を有し営業を行いました。

しかし、奥地開拓の落ち着きと鉄道利用の増加などから、昭和13年9月10日にその使命を終え廃止されました。

新内地区には明治33年ごろ、佐幌岳中腹の石切山から旧狩勝線工事に使う石材を切り出すため、岩手県人の関新太郎が入地しました。そして関は、明治36年に新内の国有未開地13戸分の貸し付けを受け、小作人を招いて開拓に取りかかりました。

明治40年9月には、待望の十勝線（現根室本線）旭川～帯広間が開通したことにより、北新内や東新内などの開拓が進展、さらに道路の開削、昭和2年6月には狩勝峠が日本八景に入選したことから、新内地区を往来する旅人が増えました。

昭和3年に再選された佐藤伊久馬村長は、新内地区を通る旅人の便を考慮し、河西支庁（現十勝総合振興局）に駅逓所開設の請願を行い、昭和4年10月29日、字新内本通南1丁目4番地に官設の新内



新内駅遷所跡の標柱

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく8月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

広報モニターさんから「広報しんとく8月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

と言ったところ、「活動的な人は外に出て目立つから、そう見えるかもしれないが、そうじゃない人も相当多いよ」と答えられました。

た。水 underwater で様々な問題があり、気づく頃には個人では対応しきれなくなるのも多くあります。後期高齢者の増加に伴い、ニーズ調査やそれを解決する仕組みづくりはとても重要だと思います。ただ少し気になったのが「助け合い精神」を推進しているところです。後期高齢者問題として、支援する側が一方的に消費されていく側面があります。地域の仕組みづくりを行う一方で、高齢者自身も自分たちの責任の下、助け合うメリットを構築していく必要があるのではないのでしょうか。

▼「夏真つ盛り！〜楽しかった夏のイベント〜」では、北海道の短い夏を楽しむかのようにビアパーティーやお祭り、夏休みの体験など、新得町の皆さんが生き生きとしている姿が見て取れました。しかしながら「そばの里まつり」欄で、氷上かけそば

早食い大会の文字が大きく、一瞬見た感じでは早食い大会そのものがイベントではないかと勘違いしてしまいました。また、各お祭りやバーテイーなどの分野ごとに文字と写真が構成されていたようですが、他の分野と間が詰まっている割には、分けられた分野内では空間が空いているなど、少し見づらい構成でした。写真のタイトルに矢印が付いていましたが、配置を工夫すれば矢印が無くても見やすくなったのではないかと思います。

▼町立高校の設立を検討中とのことですが、立場や考え方で大きく異なると思います。新得町民向けか町外者向けか、新得町内に就職するのか外の世界へ出て行くのか。高校の存在の有無、偏差値や在学する生徒の雲囲気で外から見た新得町のイメージに影響を与えます。町民の意見が実際のニーズに合致しているとも限りませんし、そもそも求めているものが高校である必要があるのかどうかもわかりません。今の財政や町の状態では無く、十数年先の日本にどのような人材が必要で求められているかを考えた上で、今後の進展に注目していきたいと思います。

▼特集にある「地域の皆さんの協力も必要」はとても大切なことだと思います。地域ごとの事情もあらうかと思いますが、局所的、広域的なども考慮し住民の意識を高めることが重要だと感じています。